



海老沼小だより

～かしこく やさしく たくましく～

12月号

平成28年11月29日
さいたま市立海老沼小学校

～諸活動を通して心や命を感じる感性を育もう～

校長 原田 守 康

早いもので、今年も残すところ、あと1か月となりました。

2学期が始まって、季節は夏から秋、そして冬へと移り変わり、季節に応じた様々な行事が行われました。12日、マラソン大会が行われ、感動の1場面がありました。それは6年生男子の部の出来事です。最終ランナーの児童が南門に入ってきました。6年生の児童が「がんばれー」等と応援しています。ランナーが校庭を半周くらいしたところで、応援していた6年生男子が立ち上がり、ほぼ全員で、走っていた児童の後ろ、横に並んで一緒に走りだしました。そしてゴールイン、6年生にとって小学校生活最後のマラソン大会、児童たちは、全員で走り終えた喜びを感じ取っていたようでした。そして見ていたたくさんの人たちがその光景を目にし、たくさんの拍手や声援を送っていました。

4日、3年生は社会科見学で、地域の伝統産業の学習として岩槻の人形作り等を見学しました。学年では見学前に新聞記事等を用いて事前学習をしました。その新聞記事は「おもかげ雛に心こめて」というタイトルの写真付きの内容でした。

節句人形で有名な岩槻区の人形職人たちが東日本大震災で肉親を亡くした被災者のために、故人をしのぶ「おもかげ雛」をつくっています。人形は、写真や似顔絵を頼りに頭部の工程を1人の職人で行います。「似すぎているとつらさが増す」という意見もあり、職人の感性で面影を残した人形を作ることにしたそうです。瞳や目を細めた表情、髪の色や長さなど故人の特徴を残しています。

千体を製作し、材料費や送料は募金活動でまかない、希望される方々に無料で届けています。表情には職人の心の内が出ており、まさに職人の魂をこめた世界に1つだけの贈り物となっています。

3年生は、この記事の内容を事前に学習した後、人形博物館で木目込人形等の伝統工芸の解説を聞き、四季折々の節句の風習から生まれた雛祭り・端午の節句などの節句人形見学や職人による人形の製作を見学、疑問に思ったことを進んで質問していました。

6年生は、15日に岩槻人形協同組合のご厚意により、12名の伝統工芸師の指導のもとで、江戸木目込人形の製作を行いました。各班に1名の職人さんが入り、児童一人ひとりにアドバイスをしてくださいました。児童たちは、集中して、人形の胴体に彫った溝に布地の端をていねいに埋め込んで衣装を着せたように仕上げていきました。衣装の布地を埋め込むことを「きめこむ」ともいったことから木目込人形と呼ばれ、胴体が出来上がった後に頭を取付け、人形の髪を思い思いに整え、完成させます。

児童が作った作品1体1体は、裁断した着物の生地により衣装の柄や微妙に顔の様子も異なっています。

人形の製作を通して、日本の伝統的文化や美意識、人形に対して心や命を感じる感性、手仕事の技を学ぶよい機会になりました。

児童たちは心を込めて作った江戸木目込人形をいつまでも大切にすることと思います。